

公益社団法人 日本動物学会

平成 26 年度 第二回理事会議事録

1.開催日時：平成 26 年 9 月 10 日（水） 午後 2 時より午後 5 時半

2.開催場所：東北大学川内北キャンパス A307 教室

3.理事総数及び定数

総数 18 名 定足数 10 名

4.出席理事数 17 名

（出席） 山下正兼、高畑雅一、田村宏治、出口竜作、窪川かおる、稲葉一男、  
赤坂甲治 岡良隆、蟻川謙太郎、武田洋幸、内山実、阿形清和、沼田英治、  
富岡憲治、尾崎浩一 飯田弘、高宗和史

（欠席） 井口泰泉

（出席監事）佐藤矩行、長濱嘉孝

5.議事の経過および結果

定款 34 条に則し、定足数については 理事 18 名のうち 17 名が出席であると武田庶務から報告があり、本理事会の成立が確認された。

報告事項

1 会長報告

阿形会長より、以下の会長報告があった。

内閣府から、事業報告と決算に関しては、理事会での承認後、二週間という期間を設けて総会を開催するよう指導を受けた。そのため、急遽 8 月 26 日に、第一回理事会を開催したが、理事の皆様には、ご対応を頂き感謝したい。併せて、内閣府の指導が非常に丁寧であったと聞いているが、大変ありがたいことと感謝している。次に、BioMed Central からの新刊 OA ジャーナル *Zoological Letters* 発行への準備は進んでおり、投稿受付も開始されている。理事の方々には、率先して投稿をお願いしたい。併せて、平成 28 年 11 月には沖縄で国際動物学会議が開催される運びとなり、すでに HP もほぼ完成している。動物学会が 130 年にもおよび歴史の中では初めての会議開催となるので、会員も含めてこちらもご支援をお願いしたい。さて、公益化後、学会内のシステムの検討を行うべきであったのだが、国際情報発信強化 (B) を使った ZooDiversityWeb の構築、新刊 OA ジャーナル立ち上げ、2016 年国際動物学会議の計画という大きなテーマを抱えたため、手が回らない状況であった。この件は、次期理事会をお願いしたい。

2. 庶務報告

2014 年入会者は 245 名、一般 45 名 学生会員 199 名で、ここ数年大きな減少なく、入会者がある。これはひとえに一般会員の方々が学生に大会での発表を促し、参加者の増加をお考えくださっている結果でもある。

3. 田村仙台大会委員長より以下の報告があった。

仙台大会の準備状況の説明がなされた。演題数はおよそ 520 演題、参加者 900 名を予定している。準備は今のところ順調に進んでおり、仙台大会を楽しんでいただきたいと考えている。あえて、復興の仙台大会ではなく、動物学を推進する学会大会であることを願っている。

4.今後の大会について

赤坂理事（関東支部長）から、平成 27 年度（2015）学会大会は、新潟朱鷺メッセで開催される旨、大会委員長は濱口哲会員で、新潟大学会員を中心に準備委員会が作られた旨の報告があった。

続いて、佐藤監事より、平成 28 年度（2016）の第 22 回国際動物学会議、第 87 回日本動物学会沖縄大会合同大会の開催についての説明があった。11月14日から16日までは沖縄科学技術大学院大学での開催、その後沖縄コンベンションセンターへ場所を移動し、ここでは、日本語でのポスター発表も受け付ける。

続いて、内山理事から、平成 29 年度（2017）は中部での開催が決定されているが、富山での開催が、支部の中では決定している、富山大学だけでは、対応が難しいので、金沢等の近隣大学とも連携する旨が説明された。

## 5 委員会報告

富岡理事（広報委員会） 動物学会案内のパンフレットを作成した。パンフレットが回覧された。ただし、会長が交代となるため、作り直す必要がある。

窪川理事（男女共同参画） 多様なワークライフバランスを語り合おう。というテーマで、グループ討議を行う。第 11 期男女共同参画学協会連絡会で動物学会内アンケートの調査まとめた冊子が配布され、報告がなされた。動物学会は学生会員が多く、女性比率も高いが、一般会員になるとその率が低くなる傾向がある。特にポストドクの生活は厳しいことがよくわかった、今後は、キャリアパス検討委員会を立ち上げ、生物科学学会連合等でも討議を重ねたい。

蟻川理事（賞等選考） 賞選考体制の整理を行いたいということで、審議事項でご検討を頂きたい。資料は用意した通り。

稲葉理事（国際交流委員会） 第 1 回 国際交流セミナーを開催する。フランスのクリスチャン・サルデーの講演を中心に、参加者全員が研究を紹介、英語で行うことになる。2015 年は佐渡「臨海実験所」で開催を行う。新潟臨海実験所 安藤会員が中心となって行う。2016 年 国際動物学会議基調講演者の推薦、またその招待などについては、理事の方々全員

委員会委員であるので、ご協力をお願いしたい。仙台大会開催後、メールでお知らせをする。

高宗理事（図書委員会） 本日は7月30日にweb会議を開催したため、委員会は開催しなかった。丸善の動物学辞典の編集委員を理事会で決定して頂きたいので、それは審議事項で行うので、検討を頂きたい。委員の任期は、延長を全委員が承諾をしている。Springerからの発刊は、二巻まで進んでいる。

内山理事（渉外担当） 本会は、税額控除団体として認定されている。その審査は、5年ごとに行われ、年間3000円×100件の寄付が認定の基準である。ここまでは、それをクリアできたが、今後は、できれば会員以外の方からの寄附をどう集めるかという問題もあるだろう。皆様の知恵を拝借して、活動を進め、動物学推進のための活動へと還元したい。

山下理事（将来計画委員会） 二か月に一度のメール会議を開催してきた、哺乳類、生態関係の会員増加を目指したいということで。仙台大会二日目に、哺乳類関連のシンポジウムを開催するので、ご参加ください。若手育成に関しては、難しい問題であるが、本日の委員会では、学会での発表をすることに意義をどう考えるかということを議論した。

違う分野の院生の発表をする場を支部大会で、意識して行うというのはいかがかという提案があった。

岡理事（IT委員会） 杏林舎との連携で、XML化による、iPadで日程や要旨を見ることができるようにした。先行きは、冊子印刷経費の削減につなげたいと考える。プロジェクターを使って、どのように使うのかを説明がなされた。

## 2 審議事項

### 1. 丸善からの動物学百科事典出版について

高宗理事（図書委員会）から、丸善より動物学辞典の出版の申し出があり、検討を重ねてきたが、編集委員として、武田洋幸理事、小泉 修理事、浅見崇比呂理事を推薦するので、お認めいただきたい。3人の理事の委員については満場一致で決定した。

その上で、本会が出している動物学用語辞典との齟齬がないようにしてほしいと会長から意見がだされた。

### 2. 支部活動費について（2014年活動費支払い報告も含めて）

資料を参照しながら、出口会計幹事が説明を行った。

支部活動は、公益的活動として重要であるが、現在の配分方法では、十分な活動が行えないため、前期は、東北支部から、補助要求があった。田村理事（東北支部長）から、現状の説明があり、最低15万円の支部活動費をお願いしたいと考えると意見が述べられた。

また、学生会費は 3000 円であり、その中から、800 円を支部会費として支部へ戻している。2200 円の本部会費では、実際苦しいところがあるが、学生会費に関して値上げをするという点に関して、ご意見を頂きたい。

高畑理事（北海道支部長） 委員の中では、学生会費の値上げは致し方ないのではないかと意見だった。学生会員の意見は聞いていない。

飯田理事（九州支部長）意見をまとめられていないが、15 万円を切ると活動は厳しいように考える。

尾崎理事（中国四国支部長）中国四国支部では、3 学会合同大会を開催しているため、参加費を集めている。やはり、10 万円を切る活動費は、厳しいのではないかと思う。

赤坂理事（関東支部長）関東支部は、資金的に潤沢であり、支部大会も参加費を徴収していない。学生会費の値上げは厳しい状況であるが、今後の学会活動の発展のためには、値上げをしないことに賛成したい。

議論の結果、これまで通りの配分で行い、ただし、平成 27 年度から、支部会費が 15 万円を下回る場合は 15 万円を配分するという事になった。また、支部会費の返還は、新年度になった 7 月の第一週として、金額は、前年度決算で確定している各支部会費を返還する。

### 3. Zoological Science と Zoological Letters について

○Zoological Science の隔月刊について

倉谷編集長より、以下の説明がなされた。

ZS を隔月刊出版を行いたい。Zoological Letters の出版が、Open Access で、受理後出版されることから、Zoological Science の隔月刊化がネガティブにとらえられることもなくなるだろうと考える。年間出版数を 120 論文から 90 論文くらいにしたいと考えている。

沼田理事 論文数を削減することで経費は、下がるのだろうか？冊子体購入者への価格は下がるのか？という質問がなされた。

倉谷編集長 出版経費は、削減できる。実際の経費見積もりに関しては、追ってお知らせをする。

阿形理事 会員で冊子を購入される方への請求額は、今までも原価に近い金額であったので、現状のままをしたい。6 冊になっても、発表される論文数は半分になるのではない。

審議の結果、Zoological Science 隔月刊化が認められた。

倉谷編集長より、深津武馬会員の ZS 主幹への就任についての審議が出された

倉谷編集長は、平成 27 年度から発行される OA ジャーナル Zoological Letters に専念する必要性があり、二誌の成功のためにも、編集委員であった深津武馬会員の主幹就任を検討して頂きたい。その結果、二年間という期限を付けて、深津会員が、主幹に就任することが満場一致で決まった。

○倉谷編集長が、ZL と ZS の出版についての考えを述べた。

IF 3 を目指している。最初に、声をかけて良い論文を集めることも可能であるが、その後、

それを維持することは厳しいため、あまりそのことに力を入れないようにしたい。理事の方にはそれでも、これはという論文があれば、ご投稿をぜひお願いしたい。BMCがSpringerの傘下に入ったわけであるがロゴなど、こちらの意向が聞き入れられないこともあり、難しいことはある。また、投稿システムに関しては、BMCのシステムを当初は使うが、いづれは、Editorial Managerに移る。来年1月から良い論文を出版して、高いIFを獲得できるように準備を整えている。

(阿形理事) 来年1月に出版が開始された後、できるだけ早く理事会を開催し、状況の把握を行って、このレベルで出版についての意見や検討を行うべきだと考えている。現段階では、まだ出版が開始されていないため、Zoological Scienceとの違いも見えて来ない。動物学会会員が投稿したい動物学のOAジャーナルになることが必要であるが、理事の方々のご支援が必要だと考える。

#### 4. 賞等選考に関して

蟻川理事(賞等選考)から、動物学会における賞選考体制について、案が示され、説明がされた。学会賞等選考委員会が、学会賞、奨励賞、江上、川口基金の選考を行い、併せて、財団等への推薦者選考も行っており、負担が大きく、また、選考委員会のみが多くの賞選考を担当することに、問題はないかということもある。用意した資料を確認いただきたい。検討案としては、学会で最終決定する賞は、学会賞等選考委員会が行う。動物学会女性研究者奨励OM賞は今まで通りOM賞選考委員会が行う。問題は、教育賞と成茂動物科学振興賞に関してである。教育賞は、公益社団になる以前より、会員外から広く推薦者を公募してきたこともあり、選考委員会で良いかどうかということもある。ただ、たくさんの委員会を設けると、その選出も大変であるので、難しいところだ。次に、財団等への推薦者を決定するために、新設の推薦委員会が担当するをしたいと考えている。大きくは、賞等選考委員会から、財団推薦を切り離し、委員会を作るということになる。

(沼田理事) 動物学会が最終的に決定をする賞、OM賞、財団等への推薦者を選考するという3つのカテゴリーに分けるのは、選考委員会の性格がはっきりするので良いと思う。財団申請に関しては、また選挙や支部からの推薦で決めるのは、煩雑であるように考えるが。(山下理事) 成茂動物科学振興賞を選考委員会の業務とし、財団推薦に関しては、学会賞等選考委員会被選挙者からオミットしている、会長以下、本部役員にお願いできないか。成茂動物科学振興賞選考の代わりに。

審議の結果、学会賞等選考委員会は、動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、江上、川口基金授与者を審議決定、日本動物学会女性研究者奨励OM賞は、男女共同参画理事を委員長に、各支部から推薦された委員により構成され、賞を決定する。あらたに創設する財団等推薦者選考委員会は、本部役員より構成され、財団推薦者を決定するということが決まった。この後、阿形監事より、各賞の規程の整備をすべきであるという意見がだされ、次回理事会までの、将来計画委員会委員長で副会長である沼田理事が原案を作成、検討を行うこととなった。

本理事会議事録が、上記の通りであることを証するため、ここに署名押印をする。

平成 26 年 9 月 10 日

議事録署名人

(議長・出席代表理事)

議事録署名人

(監事)

議事録署名人

(監事)